

心筋細胞全ゲノム結合プロファイリングを用いた 転写因子 c-Myc を介する RNA 代謝フィードバック



目で見ると
海外論文発表

増村 雄喜*

Genome-wide Binding Profiles of c-Myc and RNA-polymerase II
Clarifies c-Myc-mediated Circuit Pathway in RNA Metabolism in Cardiomyocyte

Key Words : Cardiac-hypertrophy, Genome-wide analysis, c-Myc,
RNA metabolism

<参加会議名> American Heart Association
Scientific Sessions 2014

<開催場所> McCormick Place, Chicago, Illinois,
USA

<渡航期間> 2014年11月16日～11月20日

<発表タイトル> Genome-wide Binding Profiles of
c-Myc and RNA-polymerase II Clarifies c-Myc-
mediated Circuit Pathway in RNA Metabolism in
Cardiomyocytes

11月15日～19日の5日間、アメリカのシカゴで開催された米国心臓病協会（AHA）の学術集会に参加してきました。AHAは1924年に設立された古い歴史をもつ協会で、学術集会は1925年より続けられ、現在では循環器分野における世界最高峰の学会の1つと位置づけられています。この5日間で5000以上の発表が行われ、世界100カ国以上から多くの方が参加しました。内容も循環器分野における内科・外科に関する臨床研究から基礎実験までと、幅広い内容の発表が行われ、数多くのセッションが毎日開催されました。

学会開催期間のシカゴは特に寒い日々が続いており、最高気温が-4℃という日もありました。幸い雪が降り積もるといことはありませんでしたが、ミシガン湖湖畔に位置するシカゴ市は「Windy City」と呼ばれるように、冷たい風が吹き込み、とても寒

く感じられました。

私自身、海外の国際学会での発表は初めてで、更に口頭発表ということで、とても緊張していました。しかし、4年間やり続けた自分の研究を、海外の場で多くの方に聞いていただけることに、大変うれしい気持ちで発表に臨むことができました。色々なコメントをいただい、これからの研究への糧になり、何よりも自分の研究に興味をもって反応していただけたことが、大変よかったと思います。最後に、このような貴重な発表の機会を与えていただき、また多くの方に応援いただきましたことに心から感謝申し上げます。



シカゴのビル群



発表会場前にて



発表風景



*Yuki MASUMURA

1980年3月生

大阪大学医学部医学科（2005年）

現在、大阪大学大学院 医学部 医学系

研究科 循環器内科学（医化学）教室

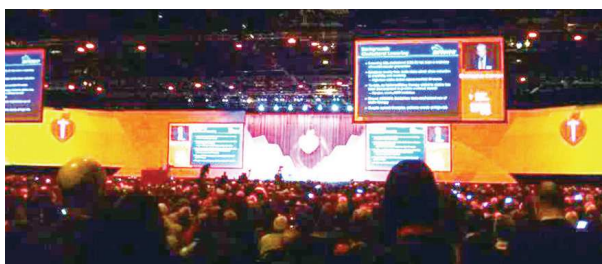
大学院4年 循環器内科

TEL：06-6879-3492

FAX：06-6879-3493

E-mail：ymasumura@cardiology.med.

osaka-u.ac.jp



メイン会場の様子